

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 10月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473600371		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム甲田		
所在地	広島県安芸高田市甲田町下小原3363番地 (電話) 0826-45-7777		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473600371-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年9月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

各利用者が大切にしてきた入所までの生活をなるべく継続していけるよう、地域の中でのグループホームでの役割を考え、支援している。コロナが5類となり制限が緩和されたことで、外出行事や地域の行事への参加など、コロナ禍以前の活気あるグループホームに徐々に戻している。個々の思いを知り、寄り添うための手法として昨年からは学び始めたユマニチュードも継続して取り組み、日々の支援に活かしている。今後は家族や地域との交流をコロナ前のように活発にしていけるよう感染対策と併せて進めていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

新型コロナウイルス感染症の時勢に合わせ、利用者は再開した夏祭りの地域行事に参加が出来た。職員は打ち合わせに出席したり地域ボランティアとの交流・市町から委託された元気教室の開催などを継続し、家族を含めた行事企画、ノーリフティングケア（抱えあげない介護）にて身体に優しい介護が在宅でも活かせるよう介護教室などにも取り組んでいる。昨年からは全職員で学んでいるユマニチュードケア（人間らしさと優しさに基づいた認知症ケア）の実践を継続し、一人ひとりのケア時のアプローチ内容や利用者の変化など話し合い、介護計画に取り入れてきた。その結果、利用者は一人ひとりのペースで過ごし、職員が支援する事で表情が変わる等、職員はユマニチュードケア実践の効果を実感し、利用者との信頼関係に努めている。

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念、部署目標に基づき利用者の処遇や職員のケアに対する意識統一を図る。またミーティングや申し送り時に必ず確認するようにしている。	法人理念をもとに、事業所の基本方針を掲げ、個々が作成した目標シートを用い半年毎に管理者と共に見直しを行っている。職員全員でユマニチュードの学びを継続し「あつ、なんかいい!!」「ここに来てよかった」の基本方針を目指し理念を共有しながら様々な生活環境作りに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年は施設から地域の夏祭りに参加することができた。地域にある施設としてボランティアの受け入れなども行っている。	コロナ禍にて地域との交流は減っていたが、今回、夏祭りに参加できている。施設に中学生作成のポスターの掲示依頼や、職員は打ち合わせ会議に出席をしている。地域ボランティアによる話し相手・洋服修繕・門松制作・花田植え見学の際の外出手伝い等、地域住民の協力が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症対応型施設として、家族介護教室などに参加し、認知症について知っていただく機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回開催している。今年度は運営推進会議に利用者、家族、地域、行政から参加していただけるようになった。日頃の様子や新しい取り組みを発信していく場として活用している。	コロナ禍にて書類送付での開催であったが、感染の時勢に合わせ、今年度から利用者也出席した通常の再開となっている。利用者の様子を伝え、事故報告は丁寧に分析し改善策を伝えている。家族からの意見により、面会制限の変更は郵送で知らせる等を検討しサービスに反映させている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議や書面での報告にて事業所の実績やサービスの取組み等、定期的に情報交換を行い、連携や質の向上に努めている。	行政主催の元気教室の事やワクチン接種の書類のやり取りなど行っている。地域包括支援センター主催の研修に参加したり、介護教室に関する情報を共有し、利用相談にも応じる等、日頃から担当課に直接出向き協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束や施錠は行っていない。人感センサーなどで自由に行動していたきながら、安全に暮らせる工夫をしている。</p>	<p>毎月の身体拘束適正化委員会や、年2回の職員研修を継続している。不穏時や転倒リスク時などのケアについて実際の支援や利用者の変化を職員で共有し、時には「思いを聴く」等の対応に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>定期的に施設内で法定研修が開催されることで、普段から職員が虐待について勉強し、個々の意識を高め、利用者が安心して生活できるよう心掛けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について外部研修で学ぶ機会があり、研修資料等は閲覧できるようファイルしてある。また、必要な場合には支援できる体制にある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、説明・納得の上、同意を得ている。また、サービスの内容の変更点(加算等)は運営推進会議の場でも説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>昨年はコロナ対策中で運営推進会議や家族会が行えなかったが、今年度は実施している。意見や要望が聞ける時間は面会時などにも積極的に近況報告をし、話しやすい関係作りに努めている。</p>	<p>家族会は中止となったが、再開した運営推進会議で、面会に関する事業所の具体的な取り決めに家族に伝達する方法を検討し、実施している。また利用者の意見から、職員が一人ひとりに関わる時間の長短により、他の利用者の心の動きにも配慮するようになった例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員面談等、定期的に意見を聞く機会を設けており、その機会以外でも随時対応している。</p>	<p>管理者は定期的な個人面談時に限らず、職員からの意見や提案を気にかけて「あんなにかいいね！」を目指し実践に繋げている。共有空間の天井に簡単に降りるスクリーンを設置し利用者が落ち着く空間を創ったり、残業対策のルールを設ける等、職員からの意見を運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の業務評価において面接を行い、職員個々の意見を聞く機会を設けている。その中で個人目標を設定し、各自の意欲向上を図るとともに意見交換を行っている。その他、法人全体としてノーリフティングケアや新しい給与制度の導入など職員が働きやすい環境を目指している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員一人ひとりの能力を把握し、スキルアップできるよう、法人内外への研修参加の機会を設けている。新人職員についてはOJTによる育成を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>関連事業所と研修会や交換実習等を通して、交流や意見交換をし、業務改善に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に本人と家族、職員を含めた事前面接を行い、要望や不安な点を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の訴えに応じて傾聴し、思いを汲み取り納得していただけるよう心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前の事前面接で、本人・家族と話し合いの場を設けることで不安が取り除けるよう努めている。利用開始後も運営推進会議や家族会を通し、話を聞き、思いを知る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の生活において、本人の生活歴を通して個人個人に合った役割や得意な分野を見出すことでそれぞれの思いが尊重できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議や家族会を開催することで、施設での様子を知っていただく機会になっている。また、体調不良時などは電話で連絡し共有することで、共に利用者を支えていけるような関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の行事への参加や施設行事への外部からの参加を呼び掛けるなど、馴染みのある方との交流を支援している。地域での買い物や外食、自宅周辺のドライブなど今年から再開している。	近くの公園・桜名所・初詣の神社など共通の馴染みの場所に出かけたり、自宅付近をドライブで懐かしむ等の機会を設けている。同敷地内の施設に利用中の知人に合う事も多々あり、また月に一度、音楽療法の講師の訪問があり顔馴染みの関係性が継続するよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事・外出を通して交流を持ち、仲間としての意識や関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も退所後の受け入れ先の相談や調整を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ユマニチュードの学びの中で、その人の生活背景を大切にすることから、コミュニケーションを図り本人に合った生活環境が提供できるようにしている。	日頃の関わりの中でユマニチュードケア(人間らしさと優しさに基づいた認知症ケア)の技術を活用しながら、何気ない会話や表情の中から望みや思いを知り、月1回のミーティングや連絡帳にて情報を共有し、本人本位の介護計画作成に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族との面談を通して、これまでの生活歴やサービス利用歴を把握している。しかし、核家族化によって連絡が取りづらい、キーパーソンでも利用者のこれまでの経過を知らない等の現状もあり、情報不足の点もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	9名ずつのユニットに分かれて活動することで、少人数を対象にした細やかなケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員の意見や、気づきを日々記録し、本人・家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。</p> <p>ミーティング等を活用し、職員それぞれの気づきを共有し計画に生かしている。</p>	<p>計画作成者は担当職員を中心に情報収集しアセスメント後、介護計画を作成している。部屋から出る、或いはレクリエーション参加時は、ユマニチュード技法で声かけをする等、現状に即した本人本位の計画作成に努めている。個々の短期目標は毎日のケアチェック表に掲げ共有している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日個々の生活状況を記録している。ケアプランに則したチェック項目を設け、プランの実践の確認をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>地域行事に参加したり、地域の方との交流会を持ち、利用者が生き生きと暮らせる支援をしている。</p> <p>ユニットごとで、より個別化したケアにも取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医との連携だけでなく、地域の中での暮らしを継続できるよう、情報収集している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者・家族の希望を重視し、適切な医療機関に受診していただけるよう支援している。</p>	<p>利用開始前のかかりつけ医を継続する、或いは同法人の嘱託医師に変更するかは本人・家族に説明後、希望に沿って決めている。家族が受診同行する場合は、利用者の状況を書面で情報提供を行い、必要時は職員が同行し医療情報を適切に介護に繋げる等、かかりつけ医との連携に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の状態を確認し、相談や報告をしている。服薬や日々の健康管理に気を配り、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が+A68:F106入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、病院関係者と連携を行っている。利用者が入院した時は認知症のBPSDについて担当看護師に細かく伝達するよう努めている。退院調整や退院前のカンファレンスなどは相談員を中心に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の指示のもと、本人・家族・職員とで話し合いを行っている。	重度化や終末期のあり方については、契約時に事業所の方針を伝えている。本人・家族の意向と医師の指示のもとに、可能な限りその人らしく過ごせるよう職員間で話し合ってチームケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃から医務室との連携を図り、定期的な救急講習を受けている。救急マニュアルにも目を通し、職員の意識づけを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を実施している。コロナ以前は毎年地域の自主防災訓練にも参加していたが、コロナ以降は施設内での訓練のみとなっている。今年も火災時と水害時の訓練を行う。	消防署の協力を得ながら年2回、利用者と共に消防避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練は、全職員が体験する事を目指し、日頃から避難経路に物を置かないなど意識している。備蓄は同法人の調理部が食料を確保する等の協力体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格や誇り、プライバシーに関して損なわれることがないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。	全職員が「貴方を大切に思っているを伝える」を基本とするユマニチュード技術を学び、職員間で丁寧話し合いながら実践を継続しており、一人ひとりの人格の尊重に取り組んでいる。居室に入る時のノック・話しかけ方などプライバシーや尊厳を損ねない対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自ら行動し、意思決定できるような支援を心掛けている。難しい利用者についても、分かりやすいことばで働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるよう、その人らしい生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人らしさやその人の好みのおしゃれをできるだけ自分で選んでいただく、決めていただくということを大切にし、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の好みについては利用者に栄養士が嗜好調査を行っている。食事の配膳や後片づけはお手伝いいただきながら関わっている。その他、利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて、食事形態を見直し、安全においしく食べれるよう配慮している。	通常は施設内の厨房から食事を提供し、利用者は食器並べ・盛り付け等に参加している。栄養士による定期的な食事アンケートの実施や、看護師により嚥下評価を行い、好みも含め適切な個々の食事形態となっている。月1回の内食会では畑で採れた野菜カレー等、楽しむ機会もある。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態は個人に合ったものを提供することで、栄養面だけでなく食事量の確保にも繋がっている。水分もこまめに提供することで水分を十分に取り、脱水の予防に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、一人ひとり口腔ケアの声掛け、促しを行い、実施している。自分で口腔ケアが困難な方には職員が介助を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中、夜間とその人に合わせたトイレ誘導を行い、リハビリパンツ・尿取りパッドへの失敗、皮膚トラブルの軽減に努めている。また、トイレ誘導時には排泄後に蒸したタオルやおしりふきシートなどで清潔を保てるようにしている。</p>	<p>トイレでの排泄を基本とし、排泄パターン表や仕草など個々のタイミングをみて声かけを行っている。時にはオムツフィッターから正しいパットの当て方等の研修を受け、排泄面でのトラブルや夜間のパット交換の回数など、利用者本位で検討し改善に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日々、ラジオ体操やリハビリ体操のほかに、気候や体調をみながら運動を兼ねて施設敷地内の散歩を行っている。また、こまめに水分を提供することで一度にたくさん飲めない方にも、水分を摂っていただけるよう気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調や気持ちを尊重し、部署の生活支援に沿って、入浴していただいている。行事があれば調整しているが、どちらも楽しんでいただけるよう努めている。</p>	<p>週2回、午前中の中入浴を基本とし、体調・気分などにより午後や日を変える等、柔軟に対応している。浴槽の時間・転倒等の安全に配慮し、職員との会話や入浴剤の香り、気持ち良い入浴になるよう支援をしている。保湿剤は部位や注意事項を掲げ、個別の支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の生活リズムをある程度把握し、尊重している。散歩や体操等で心地よい疲労感を感じていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の服薬ファイルを作成し、職員全員が目を通すことで意識を高め、服薬に対する認識をきちんと持つよう努めている。状態に応じて職員間で話し合い、必要な時は医師・看護師に指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの能力や今までの生活歴等を参考にしながら役割を見つけ、楽しみながら生活できるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域の行事に参加する際は、ボランティアを呼び掛けるなど、地域の中の事業所として理解をいただき交流の場となっている。ご家族にも外出や受診では協力いただいている。	地域行事や花田植え見学などに参加する際は、町内会役員がボランティアを呼び集め、以前から誘導などの協力を得ている。要望でファーストフード店や衣料品店に、個別の外出を支援し、普段は玄関前のベンチで花を見たり、敷地内の菜園に行く等、様々な外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望に添えるよう、あまり高額にならない範囲での支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望に合わせ、支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有空間は1日に1～2回活動できる利用者と共に清掃し、換気を行い清潔を保つようにしている。ホールには行事の写真や、製作活動の作品を飾るなどしている。ソファの設置や、空調・照明の調整で利用者の安らげる場所作りを心掛けている。</p>	<p>吹き抜けの光は梁を利用した日よけで暖かな自然光にしている。思い思いにテレビ鑑賞、ほうきで床を清潔にする、洗濯物の濁き具合をみる、お喋り等、少し離れた位置の職員に見守られながら過ごせる雰囲気となっている。スクリーンを用いて新たな落ち着いた空間創りも工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。ホール内は自由に活動できるようにし、利用者同士で思い思いに過ごせる場の提供に努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人や家族と相談しながら、自宅で使用された馴染みの物を持ち込んでいただき、本人が安心して過ごせる居心地の良い部屋となるよう工夫・協力している。</p>	<p>部屋の配置は本人・家族と相談するが、個々の身体状況によってベッドの向きや転倒しないよう床に物を置かない等の助言や工夫をしている。家族写真や飾りたい人形などを持ち込み、家族からの年賀状を壁に貼り、職員と共に床掃除をしながら居心地よく過ごせるよう支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>生活上の注意点、趣味などを知り、職員間で共有し、「できること」の継続や「分かるようにすることでできるようになる」を目指し、サービス向上に努めている。</p>		

V アウトカム項目(A棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念、部署目標に基づき利用者の処遇や職員のケアに対する意識統一を図る。またミーティングや申し送り時に必ず確認するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年は施設から地域の夏祭りに参加することができた。地域にある施設としてボランティアの受け入れなども行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症対応型施設として、家族介護教室などに参加し、認知症について知っていただく機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回開催している。 今年は運営推進会議に利用者、家族、地域、行政から参加していただけるようになった。日頃の様子や新しい取り組みを発信していく場として活用している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議や書面での報告にて事業所の実績やサービスの取組み等、定期的に情報交換を行い、連携や質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束や施錠は行っていない。人感センサーなどで自由に行動していただきながら、安全に暮らせる工夫をしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>定期的に施設内で法定研修が開催されることで、普段から職員が虐待について勉強し、個々の意識を高め、利用者が安心して生活できるよう心掛けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について外部研修で学ぶ機会があり、研修資料等は閲覧できるようファイルしてある。また、必要な場合には支援できる体制にある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、説明・納得の上、同意を得ている。また、サービスの内容の変更点(加算等)は運営推進会議の場でも説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>昨年はコロナ対策中で運営推進会議や家族会が行えなかったが、今年度は実施している。意見や要望が聞ける時間は面会時などにも積極的に近況報告をし、話しやすい関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談等、定期的に意見を聞く機会を設けており、その機会以外でも随時対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の業務評価において面接を行い、職員個々の意見を聞く機会を設けている。その中で個人目標を設定し、各自の意欲向上を図るとともに意見交換を行っている。その他、法人全体としてノーリフティングケアや新しい給与制度の導入など職員が働きやすい環境を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの能力を把握し、スキルアップできるよう、法人内外への研修参加の機会を設けている。新人職員についてはOJTによる育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所と研修会や交換実習等を通して、交流や意見交換をし、業務改善に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族、職員を含めた事前面接を行い、要望や不安な点を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の訴えに応じて傾聴し、思いを汲み取り納得していただけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前の事前面接で、本人・家族と話し合いの場を設けることで不安が取り除けるよう努めている。利用開始後も運営推進会議や家族会を通し、話を聞き、思いを知る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の生活において、本人の生活歴を通して個人個人に合った役割や得意な分野を見出すことでそれぞれの思いが尊重できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議や家族会を開催することで、施設での様子を知っていただく機会になっている。また、体調不良時などは電話で連絡し共有することで、共に利用者を支えていけるような関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の行事への参加や施設行事への外部からの参加を呼び掛けるなど、馴染みのある方との交流を支援している。地域での買い物や外食、自宅周辺のドライブなど今年から再開している。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事・外出を通して交流を持ち、仲間としての意識や関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も退所後の受け入れ先の相談や調整を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ユマニチュードの学びの中で、その人の生活背景を大切にすることから、コミュニケーションを図り本人に合った生活環境が提供できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族との面談を通して、これまでの生活歴やサービス利用歴を把握している。しかし、核家族化によって連絡が取りづらい、キーパーソンでも利用者のこれまでの経過を知らない等の現状もあり、情報不足の点もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	9名ずつのユニットに分かれて活動することで、少人数を対象にした細やかなケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員の意見や、気づきを日々記録し、本人・家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。</p> <p>ミーティング等を活用し、職員それぞれの気づきを共有し計画に生かしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日個々の生活状況を記録している。ケアプランに則したチェック項目を設け、プランの実践の確認をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>地域行事に参加したり、地域の方との交流会を持ち、利用者が生き生きと暮らせる支援をしている。</p> <p>ユニットごとで、より個別化したケアにも取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医との連携だけでなく、地域の中での暮らしを継続できるよう、情報収集している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者・家族の希望を重視し、適切な医療機関に受診していただけるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の状態を確認し、相談や報告をしている。服薬や日々の健康管理に気を配り、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、病院関係者と連携を行っている。利用者が入院した時は認知症のBPSDについて担当看護師に細かく伝達するよう努めている。退院調整や退院前のカンファレンスなどは相談員を中心に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の指示のもと、本人・家族・職員とで話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃から医務室との連携を図り、定期的な救急講習を受けている。救急マニュアルにも目を通し、職員の意識づけを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を実施している。コロナ以前は毎年地域の自主防災訓練にも参加していたが、コロナ以降は施設内での訓練のみとなっている。今年も火災時と水害時の訓練を行う。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格や誇り、プライバシーに関して損なわれることがないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自ら行動し、意思決定できるような支援を心掛けている。難しい利用者についても、分かりやすいことばで働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるよう、その人らしい生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人らしさやその人の好みのおしゃれをできるだけ自分で選んでいただく、決めていただくということを大切にし、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の好みについては利用者に栄養士が嗜好調査を行っている。食事の配膳や後片づけはお手伝いいただきながら関わっている。その他、利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて、食事形態を見直し、安全においしく食べれるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。</p>	<p>食事形態は個人に合ったものを提供する ことで，栄養面だけでなく食事量の確保 にも繋がっている。水分もこまめに提供 することで水分を十分に取り，脱水の予 防に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう， 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，一人ひとり口腔ケアの声掛け， 促しを行い，実施している。自分で口腔 ケアが困難な方には職員が介助を行って いる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし， 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中、夜間とその人に合わせたトイレ誘 導を行い、リハビリパンツ・尿取りパッ ドへの失敗、皮膚トラブルの軽減に努め ている。また、トイレ誘導時には排泄後 に蒸しタオルやおしりふきシートなどで 清潔を保てるようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日々、ラジオ体操やリハビリ体操のほか に、気候や体調をみながら運動を兼ねて 施設敷地内の散歩を行っている。また， こまめに水分を提供することで一度にた くさん飲めない方にも，水分を摂って いただけるよう気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。</p>	<p>一人ひとりの体調や気持ちを尊重し，部 署の生活支援に沿って，入浴していただ いている。行事があれば調整している が，どちらも楽しんでいただけるよう努 めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の生活リズムをある程度把握し、尊重している。散歩や体操等で心地よい疲労感を感じていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の服薬ファイルを作成し、職員全員が目を通すことで意識を高め、服薬に対する認識をきちんと持つよう努めている。状態に応じて職員間で話し合い、必要な時は医師・看護師に指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの能力や今までの生活歴等を参考にしながら役割を見つけ、楽しみながら生活できるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域の行事に参加する際は、ボランティアを呼び掛けるなど、地域の中の事業所として理解をいただき交流の場となっている。ご家族にも外出や受診では協力いただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望に添えるよう、あまり高額にならない範囲での支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人や家族の希望に合わせ、支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間は1日に1～2回活動できる利用者と共に清掃し、換気を行い清潔を保つようにしている。ホールには行事の写真や、製作活動の作品を飾るなどしている。ソファの設置や、空調・照明の調整で利用者の安らげる場所作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。ホール内は自由に活動できるようにし、利用者同士で思い思いに過ごせる場の提供に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人や家族と相談しながら、自宅で使用された馴染みの物を持ち込んでいただき、本人が安心して過ごせる居心地の良い部屋となるよう工夫・協力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活上の注意点、趣味などを知り、職員間で共有し、「できること」の継続や「分かるようにすることでできるようになる」を目指し、サービス向上に努めている。		

V アウトカム項目(B棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム甲田

作成日 令和5年10月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	多忙さからくる不適切ケア。	いかなる場面でも「思いを聴く」等利用者本位のケアを提供する。	ユマニチュードの実践と振り返りを通し、実践力、応用力を習得する。	6ヶ月
2	30	病院受診に関する施設での対応について、施設と家族との間に認識の違いがある。	施設と家族間において、受診の送迎、医療情報の共有の仕方について、認識を一致させる。	施設での方針を、ご家族に文書として送付する。	2ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。